

ひょうごの 遺跡

108号

(公財)兵庫県まちづくり技術センター 埋蔵文化財調査部

〒675-0142 兵庫県加古郡播磨町大中1-1-1 兵庫県立考古博物館内 TEL.079-437-5561 FAX.079-437-5591 URL:<http://www.hyogo-ctc.or.jp/>



発掘調査の成果

令和4年度

- 古墳時代中期～後期の渡来系集落
 - ―津門大塚町遺跡(西宮市津門大塚町)
- 但馬の横穴式石室墳を掘る
 - ―三月野古墳群(養父市大塚)
- 東西南北にのびる溝に区画された中世の集落跡
 - ―宇山遺跡(洲本市宇山)

特集

津門大塚町遺跡の公開活用

ひょうごの掘り出しもの ～第6回～
池田古墳の調査から

とらい 古墳時代中期～後期の渡来系集落

つとおおつかちよう
津門大塚町遺跡（西宮市津門大塚町）



動画はこちら

津門大塚町遺跡は、武庫川と津門川の間
の沖積地に位置しています。今回の調査は
兵庫県立西宮総合医療センター（仮称）整
備事業に伴うもので、3つの調査区に分け
て調査を実施しました。その結果、古墳時
代中期～後期と中世の遺構と遺物が見つかり
ました。ここでは、古墳時代の調査成果
を中心に紹介します。

古墳時代中期～後期の建物群

1区では竪穴建物38棟、大壁建物1棟
を検出しました。

これらの建物群からは、古墳時代中期前
半から後期後半頃の土師器や須恵器が出土
しています。多くの建物が重複しており、
約150年もの間、建て替えを行いながら生
活が営まれていたことがわかります。

当遺跡を特徴づける遺物として、竪穴建
物から出土した鉄鍛冶関連遺物が挙げられ
ます。具体的には、鍛冶炉への送風に用い
たフイゴの羽口や、鉄素材である鉄塊、鍛
冶を行った際に生じる不純物の鉄滓、鉄器
を研磨する砥石などがあります。

鉄滓に比較的大形のものが多いことや、
鉄塊が出土していることから、当集落では
最終的な鉄器加工（鍛錬鍛冶）だけではな

く、不純物の多い鉄塊を精錬し、鉄素材を
生産する工程（精錬鍛冶）も行われていた
と推測できます。

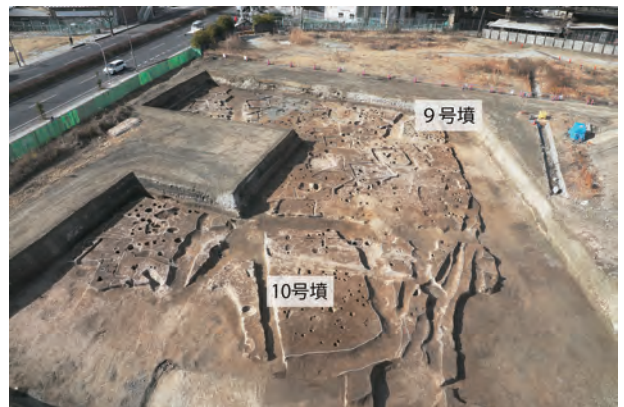
これらの遺物は、主に古墳時代後期の竪
穴建物から出土しています。

埋没古墳群の発見

今回の調査では、円墳3基、方墳9基の
計12基の古墳を検出しました。いずれも
墳丘の盛土は削平されており、周濠のみが
残存していました。

1区の10号墳では、周濠から古墳時代
中期前半の須恵器や土師器のほか、朝鮮半
島からもたらされた陶質土器（甕、把手付
椀）も出土しています。

2区の8号墳は、復元した墳丘長がおよ
そ24mの造り出し付円墳で、周濠までを



1区 of 古墳と建物群（東から）



調査地上空から大阪湾方面を望む（北から）



古墳時代後期の竪穴建物から出土した砥石

含めると 30m 程の規模となります。周濠から古墳時代後期後半の埴輪と須恵器が多数出土しました。円筒埴輪のほか、形象埴輪として、家形・鶏形・馬形・人物形・石見型などが見られます。また、8号墳の下から、ほぼ直角に屈曲する溝を検出し、そこからも多数の埴輪が出土したことから、8号墳が築造される以前に方墳(12号墳)が存在したことがわかりました。

8号墳で形象埴輪が多く出土したと対照的に、3区で出土した埴輪のほとんどが古墳時代後期の円筒埴輪に限られます。埴輪は特に3号墳と5号墳の周濠から多く出土していますが、ほかにも、3号墳の周濠からは馬の歯が、5号墳の周濠からは馬の歯と牛の歯が出土しました。

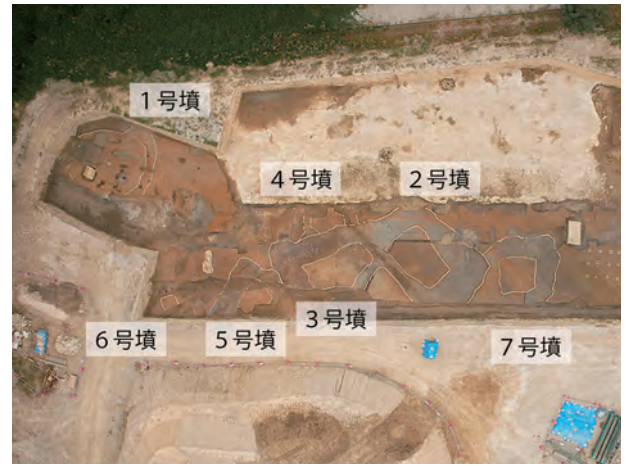
今回の調査では、併行する時期に営まれた集落と古墳群を発見しました。当遺跡では、鉄器生産や陶質土器、大壁建物、牛馬など、朝鮮半島と関わりの深い要素が複数みられることから、渡来系の人々と関わりをもった集団が鉄器生産を中心とする様々な生業を営み、その集団を統率する立場にあった人物が古墳群に葬られていたと想定できます。

古墳時代中期～後期にかけての渡来系集落と古墳群の関係を考えるうえで、多くの重要な発見がありました。

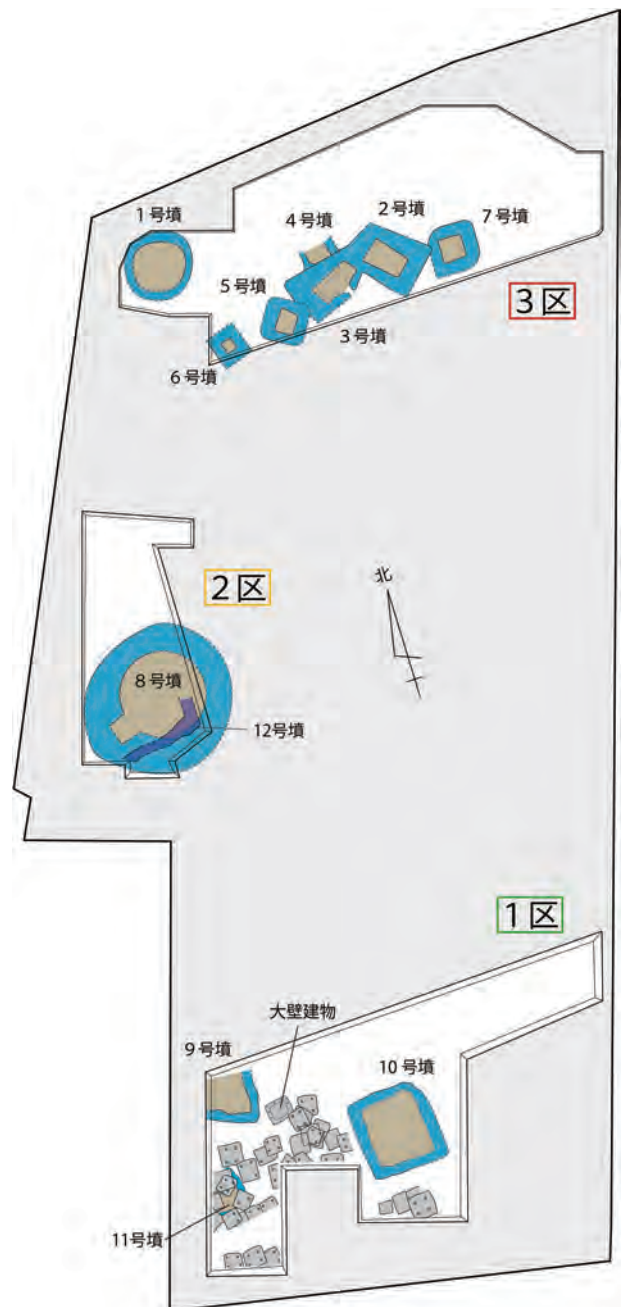
(調査第2課 池田旭)



8号墳全景(西から)



3区の古墳群(上が北)



古墳時代の遺構位置図

たしま 但馬の横穴式石室墳を掘る

みつきの
三月野古墳群（養父市大塚）



動画はこちら

三月野古墳群は^{まるやま}円山川東岸の丘陵尾根線上に立地します。（砂）本郷谷川砂防えん堤工事に先立ち、発掘調査を行いました。

今回、調査の主な対象となったのは三月野3号墳です。調査の結果、古墳時代後期（6世紀後半）の横穴式石室を有する円墳であることが明らかになりました。

墳丘 南北約9 m、東西7.5 mで、平面形は南北に長い^{だえんけい}楕円形をしています。墳丘の裾には、区画を明確にし、墳丘の崩れを防ぐための^{がいごれっせき}外護列石が全面に巡らされていました。外護列石は、養父市域をはじめとして、周辺の古墳でも多く確認されており、三月野3号墳は但馬地域の特徴が色濃くみられる在地的な古墳といえます。また、外側だけでなく、墳丘の内側にも、古墳をつくる際、^{どど}土留めのために設けられた墳丘内

列石が良好な状態で残っていました。

横穴式石室 ^{みぎかたそで}右片袖式と呼ばれる石室で、全長5.8 m、幅は^{げんしつおくへき}玄室奥壁で1.4 m、^{げんもん}玄門で0.9 m、^{せんもん}羨門で0.9 m、高さは1.9 mです。玄室と^{せんどう}羨道の長さはそれぞれ2.9 mと同時代の石室の中では、非常にコンパクトなものです。玄室は、側壁の幅が上に向かって小さくなる、^{も おく}持ち送りと呼ばれるものでした。玄門には、高さ1.2 mの^{りっちゅうせき}立柱石を置き、明確な袖部が作られていました。

遺物 石室が開口していたことから、盗掘を受けたものとみられますが、石室内の奥壁付近と石室中央の左側壁付近、袖部付近の3ヶ所から遺物が出土しました。

奥壁付近では^{とうす すえき}刀子と須恵器、玉類が出土しました。玉類には、水晶製^{きりこ}切子玉、ガラス製小玉・丸玉、^{かっせき うすだま へきぎよく くだたま}滑石製白玉、碧玉製管玉



三月野3号墳 全景（南から）

があり、首飾りを構成していたものとみられます。左側壁付近では鉄鏃^{てつぞく}がまとまって出土しました。また、袖部付近から出土した須恵器は奥壁付近出土の須恵器よりわずかに新しい時期のものでした。

このように、三月野3号墳は墳丘の外護列石や横穴式石室の残りが非常に良いものでした。墳丘の規模や副葬品の様相から、三月野3号墳に埋葬された人物（被葬者^{ひそうしゃ}）は、当該地域を治めた首長層ほどのランクではないものの、有力家長クラス的人物であったとみられます。また、出土遺物を見ると、奥壁付近と袖部付近では時期差がありました。これらの時期差から、奥壁付近の遺物が初葬^{しよそう}、袖部付近のものが追葬^{ついそう}時の遺物と考えられ、家族など、最初^{しよそう}の被葬者とつながりのある人物が追葬



石室の各部名称

されたと推測されます。但馬地域における古墳時代後期の地域社会や埋葬施設の様子、古墳の造り方を考える上での貴重な発見となりました。

なお、今回の発掘調査では、動画やレーザー測量など、最新の技術を使って様々な記録を行いました。左ページ上のQRコードを読み取ると、その成果や発掘調査の様子をまとめた動画をご覧ください。是非チェックしてみてください。

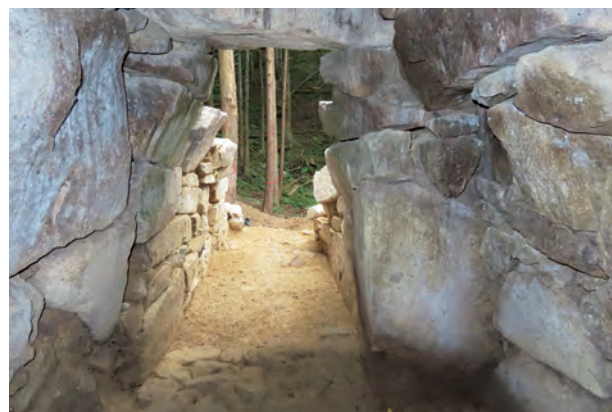
(整理保存課 稲本悠一)



墳丘内列石と石室の基底石（西から）



奥壁（南から）



玄門・羨道（北（奥壁側）から）



奥壁の遺物出土状況（南から）



袖部の遺物出土状況（北東から）

東西南北にのびる溝に区画された中世の集落跡

宇山遺跡 (洲本市宇山)

宇山遺跡は、洲本川河口付近の沖積地^{ちゅうせきち}に立地する集落遺跡です。

東西方向や南北方向にのびる幅4mの大^{おお}溝^{みぞ}で区画された、中世の集落跡を調査しました。まず平安時代終わり頃に区画溝が掘られ、区画溝の方向に沿って7棟の掘立柱建物^{ほったてばしら}が建てられています。ただし、区画溝が埋まった後に柱穴が掘り込まれている建物も見

つかっており、室町時代にかけて建物にはいくつかの時期の変遷があるようです。

遺構の検出中に鍛冶に用いるフイゴの先端の破片が見つかり、大溝を隔てた位置にある令和元年度に調査した鎌倉時代の集落域とともに広範囲で鍛冶が行われていたことがうかがわれます。

(調査第1課 上田健太郎)



調査区と洲本川河口付近 (西から)



大溝と掘立柱建物跡 (上が北西)

津門大塚町遺跡は、JR 西宮駅から東へ約 700 m の国道 2 号沿いに立地しています。西宮市街の中心地で、約 7 か月間という比較的長期にわたる調査であったため、遺跡の公開活用の機会にも多く恵まれました。ここではその一部をご紹介します。

今回の調査では、1～3 区に分けて調査を実施しました。第 1 回目の現地説明会は、11 月 13 日(日)に 2・3 区の成果のみを取りあげて実施しました。途中で見学ルートの変更を余儀なくされる荒天の中にもかかわらず、603 名に参加いただき、調査へ多くの関心が寄せられていることを実感しました。そして、2 月 4 日(土)には、1 区の成果を取りあげた第 2 回現地説明会を開催し、1 回目を上回る 730 名に参加いただきました。現地説明会の他にも、^{かわらぎ}瓦木小学校への出前授業や、西宮市立郷土資料館での写真展示など、地域の諸機関にご協力を賜りながら、様々な公開活用を実施することができました。

また今回の調査では、これまであまり実施してこなかった公開活用の手法として、発掘調査成果の速報掲示板を制作しました。

これは調査時の写真に簡素な解説キャプションを添えて、調査の現況を紹介するものです。速報掲示板の設置後は、通りがかりに掲示板の前で足を止めておられる方を度々見かけました。なかには、掲示板を目当てに現地を訪れたという方もおられました。

今回の試みから、現地説明会を実施する以外にも、調査中は常時、公開活用の意識をもっておくことが大切であると感じました。今後も文化財に対する理解や関心を得られるような、遺跡の公開活用の様々な方法を検討していきたいと思います。

(調査第 2 課 池田旭)



第 1 回現地説明会の様子



速報掲示板の設置状況



第 2 回現地説明会の様子

ひょうごの 掘り出しもの

～第6回～

池田古墳の調査から

(朝来市 池田古墳)

朝来市にある池田古墳をご存じでしょうか。発掘調査で多くの埴輪が見つかった古墳として注目されています。今回はある水鳥形埴輪についての裏話を紹介します。

ある水鳥形埴輪とは、親子を表現した水鳥形埴輪です。親鳥の背中に2羽、両脇の鏝の上に各1羽、合計4羽の小鳥が表現されています。水面に浮かぶ親鳥の背中の上で2羽の小鳥が戯れ、もう2羽の小鳥が親鳥と泳いでいる様子が表現されています。

実はこの親子の水鳥形埴輪を発見した際、ある事件が起きています。小鳥がもう一羽いたのではないかというお話です。当時、発掘調査は私を含め2名の調査員の下で進められていました。事件はもう一人の調査員の下でおきました。


ある日、彼は小鳥が出土していることに気づきました。親子の水鳥形埴輪が見つかったすぐ近くです。彼は記録をとるためその場に置いておくよう作業員さんに指示したのですが、一度目を離し

た直後、その小鳥がないことに気づきました。作業員さんが誤って土と一緒に捨ててしまったものと思い、土を捨てた土砂の中から小鳥を探すように指示しました。しかし見つかりません。当時、調査で掘り起こした土は一旦調査地に仮置きし、その後数キロ離れたところまで運んでいました。そこでその場所まで探すよう指示しました。しかし夕刻になっても見つかりませんでした。

この顛末、私はその現場には居合わせず、その小鳥を見ることはできませんでした。その数年後、その調査員は亡くなってしまいました。今となっては何の手掛りもありません。

その後、親子の水鳥形埴輪の復元を私が担当しました。その際、この埴輪にこれ以上小鳥が付く余地がないことに気づきました。幻の小鳥は本当にこの親子の水鳥形埴輪と一体のものだったのでしょうか。謎は深まるばかりです。でも永遠に闇の中です。

(調査第2課 山田清朝)



本誌に掲載の遺跡

- ① 津門大塚町遺跡
西宮市津門大塚町
- ② 三月野古墳群
養父市大塚
- ③ 宇山遺跡
洲本市宇山



出土した水鳥形埴輪
(兵庫県立考古博物館提供)

編集後記

今回は、令和4年度下半期に行われた発掘調査や遺跡の公開活用について紹介しました。

新型コロナウイルスが5類感染症に移行し、社会の活気が戻りつつある中で、今後も様々な発掘調査をお伝えしていきたいと思えます。

(調査第2課 垣内翼)

『ひょうごの遺跡』バックナンバーはこちら！

https://www.hyogo-koukohaku.jp/modules/book/index.php?action=PageList&category_id=3

<https://www.hyogo-ctc.or.jp/iseki/>

1～82号
考古博物館HP



83号～
CTC HP



公益財団法人 兵庫県まちづくり技術センター
Hyogo Construction Technology Center for Regional Development